

「流域計画・流域管理課題分野」(平成26年度採択)

事後評価結果

研究テーマ名	研究代表者	評価
激特事業を完了した河川流域における継続的な地域防災力保持のための実践的研究 (研究期間：H26年～H27年)	鹿児島大学 安達 貴浩	C
<研究概要> <p>近い将来、大規模治水事業が一旦完了する川内川において、地域防災力を継続的に維持していくためには、周辺市町村における効果的な防災計画の確立はもとより、[1]防災意識を持続するための啓発活動、[2]効果的かつ経済的な治水能力維持のための方策の確立が不可欠となる。このため本研究では、官学と流域住民の連携の下、これらに関する実践的な研究を実施した。今後、得られた知見を「川内川水系水害に強い地域づくり推進協議会」へフィードバックすることによって、きめ細やかなアクションプログラムの策定につなげる予定である。</p>		
<事後評価コメント> <p>開発された水防災河川学習プログラムについて、行政や小中学校の教員等に紹介するなどの普及の取組を行い、地域の小学校での活用につなげるなど、一定の研究成果があったと言える。</p> <p>しかしながら、本研究の中で実施された防災意識調査、水防災河川学習プログラムの発展、河道地形の変動メカニズムの解明や堤防等の機能劣化診断手法の確立などの個別研究項目間の相互関係やどのように連携させるのかについても考察することによって研究を深める必要があったと考えられる。</p> <p>今後は、本研究の目的を十分に達成するため、研究成果を協議会に反映するとともに、上記に加え、地域防災力をどのように評価するのかについても継続的な研究が期待される。</p>		

※評価基準

- A: 研究目的は達成され、十分な研究成果があった
- B: 研究目的は概ね達成され、研究成果があった
- C: 一定の研究成果があった
- D: 研究成果があったとは言い難い